



2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第8戦
SUPERBIKE RACE in OKAYAMA
岡山県・岡山国際サーキット

9月28日（土）天候：晴れ 路面：ドライ

公式予選／1' 29"838 6番手

9月29日（日）天候：晴れ 路面：ドライ

決勝／6位

観客動員数（土・日合計）：7,800人

全日本ロードレース選手権は、シリーズ8戦目を迎え、いよいよ2013年シーズンも大詰めとなってきた。今回の岡山ラウンドを含め2戦。最終戦は、2レース制となっているため残り3レースとなった。岡山国際サーキットは、東広島にあるTOHO Racingにとってホームコースということもあり、JSB1000クラスを戦う山口辰也を始めチーム全体が、いつも以上に気合いが入っていた。また、TOHO RACING CLUBからは、ST600クラスに宮嶋佳毅、併催レースのCBR250R Dream Cupに幡多智子、そしてKing of EURO FIGHTERにTOHO Racing代表の福間勇二がエントリーするなど、チームを上げての岡山ラウンドとなった。

今回は、シーズン序盤戦に使用していたスイングアームを再び投入。メカニックとライダーが相談し、チーム独自のノウハウで改良した物を事前テストから投入。走り出しから、まずまずのフィーリングを得ており、トップとのタイム差も少なかった。事前テスト2日目の1本目では、セッション最速タイムをマーク。チームのホームコースで表彰台を狙うために、マシンセットを進めていった。





2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第8戦

SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

岡山県・岡山国際サーキット

ノックアウト方式で行われた公式予選。まず40分間で争われたQ1では、マシンのセットを進めながらセッション中盤にタイムアタックし、1分29秒999をマーク。渡辺選手も同タイムだったが、セカンドラップタイムで山口の方が速かったため5番手でQ2のトップ10トライアルへ駒を進める。岡山国際サーキットは、前半セクションが中高速コーナー、後半セクションがタイトな低速コーナーというレイアウトだけに、マシンをどの部分に合わせるのが難しいコース。山口は、腕でカバーしながらタイムを詰め1分29秒838をマークし、6番手につけた。

事前テストからレースウィークを通じて、天候に恵まれた今回の岡山ラウンド。2列目から好スタートを切った山口は、5番手にポジションを上げ、さらに前を追っていきたいところだったが、目の前の渡辺選手をかわすことができない。そうしているうちにトップ3台に離されてしまう。3周目には、高橋選手にかわされ6番手にポジションダウン。その後は、渡辺選手との5番手争いを繰り広げていく。渡辺選手のマシンは、とにかくストレートが速く、コーナーで抜いても、すぐにストレートで抜き返されてしまう。そんなバトルを続けていくうちに、タイヤが予想以上に厳しい状態になってしまう。バックマーカーも多く出てきたため、レース終盤に、やや遅れを取ってしまう。最後まであきらめずに追撃したが、約3秒届かず6位でチェッカーフラッグを受けた。





2013 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第8戦

SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

岡山県・岡山国際サーキット

ライダー 山口 辰也コメント

「事前テストから順調にマシンセットを詰めてきていたので、岡山は、チームのホームコースですし応援しに来てくれる方も多いので、表彰台を狙っていました。スタートは、まずまず決まったのですが、渡辺選手をかわせず、序盤でトップグループに離されてしまったのが表彰台に上がれなかった原因です。渡辺選手をかわして、抜かれないようにコーナーを頑張り過ぎたのか、タイヤの摩耗が早く、レース終盤は厳しい状況でした。ただ、レースを走って明らかになった部分もあるので、鈴鹿では、自己ベストを更新できるようにスイングアームを改良して、いい走りを見せたいです」



監督 齊藤博士コメント

「今ひとつ、トップとの差を詰め切れず、ライダーに負担をかけてしまいました。ライダーは、現状で精一杯の走りをしてくれましたから、チームとしては、もっとサポートを強化しなければ、車両、タイヤ、そしてライダーの総合力で戦えば、決して届かない相手では、ないと思います。今回得られたデータもありますし、最終戦鈴鹿に向けて前進させていきたいです。チーム全体としては、クラブ員も参戦し、レーシングチームとして発展できた岡山ラウンドになったと思います」

株式会社 TOHO

TOHO Racing with MORIWAKI

担当 野口